

平成30年度 幸区区民アンケート調査 概要版

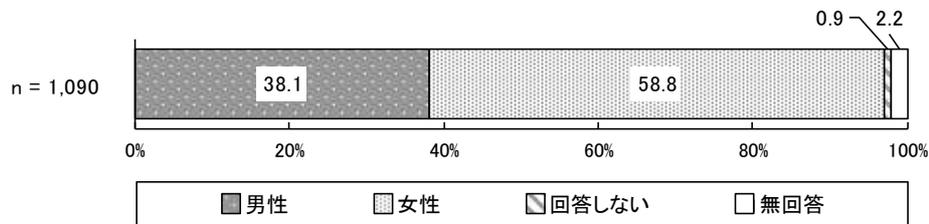
調査の概要

- 【調査対象】 幸区在住の満18歳以上の個人（外国人を含む）
- 【標本抽出】 平成30年8月20日現在の住民基本台帳に基づく無作為抽出
- 【調査方法】 郵送配布一郵送回収
- 【調査期間】 平成30年9月21日～10月5日
- 【回収状況】 調査件数：2,000件
有効回収数：1,090件
有効回収率：54.5%
- 【調査項目】
- | | |
|--------------------|----------------|
| (1) 幸区について | (8) 児童虐待について |
| (2) 区民サービスについて | (9) 高齢者支援について |
| (3) 自転車事故防止対策について | (10) 障害者支援について |
| (4) 防災について | (11) 行政の情報について |
| (5) 地域コミュニティについて | |
| (6) 地域包括ケアシステムについて | |
| (7) 子育て支援について | |

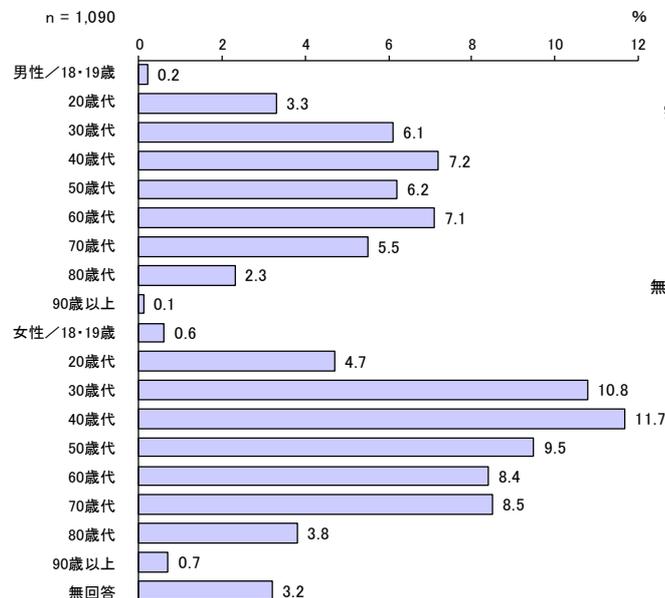
※ 図中における基数となるべき実数（n）は回答者数を示している。また、本文中の「構成比（%）」は小数点以下第2位を四捨五入していること、並びに複数回答によるものも含まれていることから、構成比の合計が100%に満たない、あるいは上回る場合がある。

○調査回答者の属性

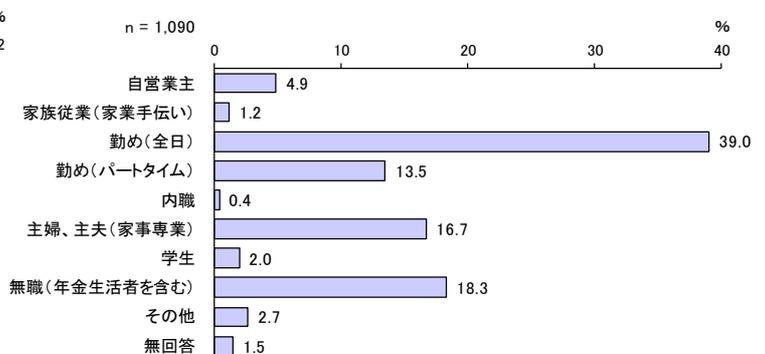
【F1】性別



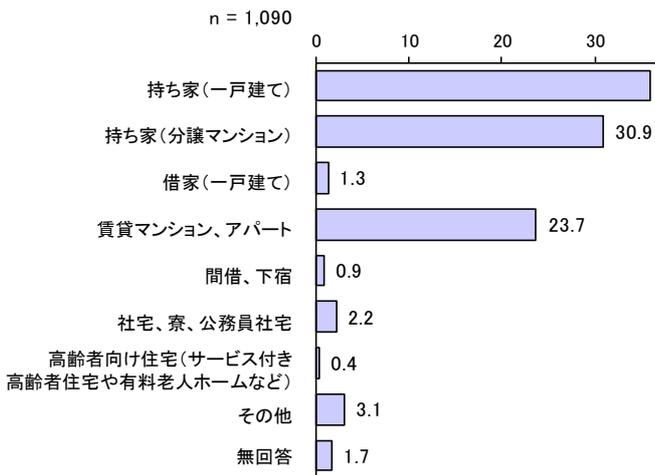
【F2】年齢



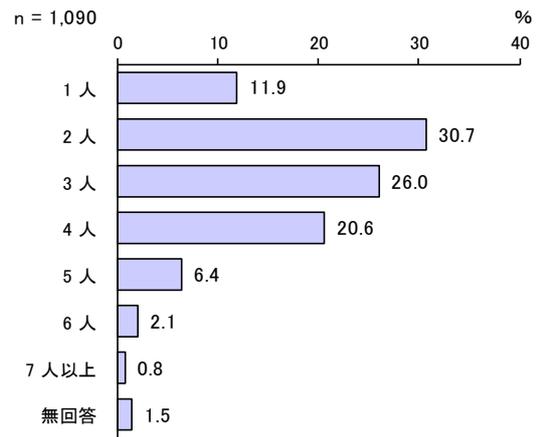
【F3】職業



【F4】居住形態

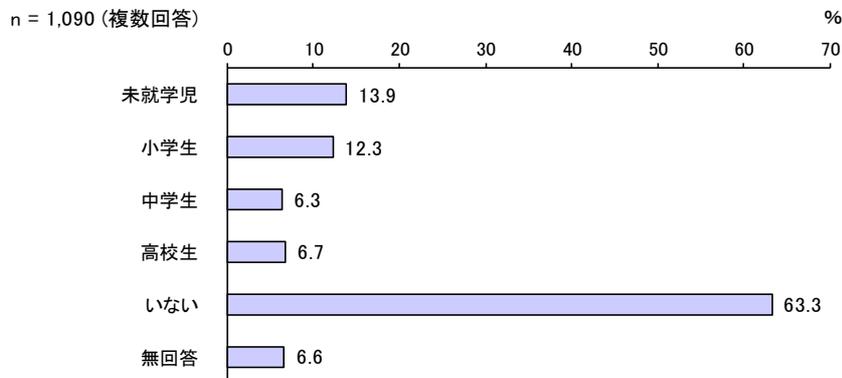


【F5】同居家族

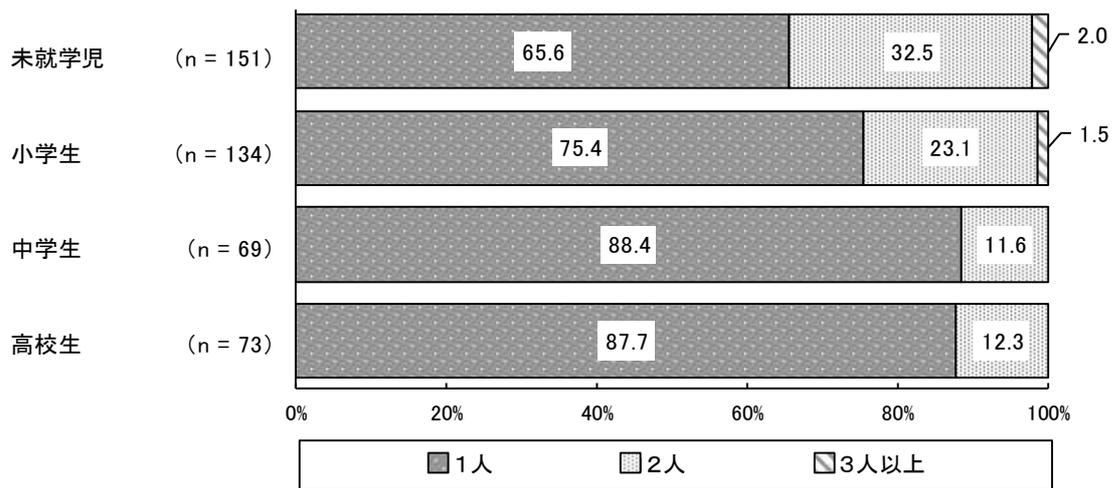


【F6】同居の未就学児、小学生、中学生、高校生の有無と人数

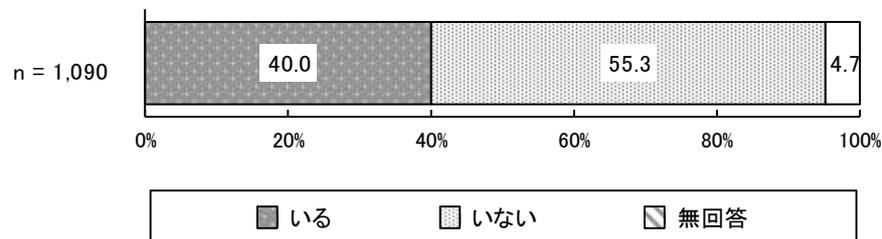
①未就学児、小学生、中学生、高校生の有無



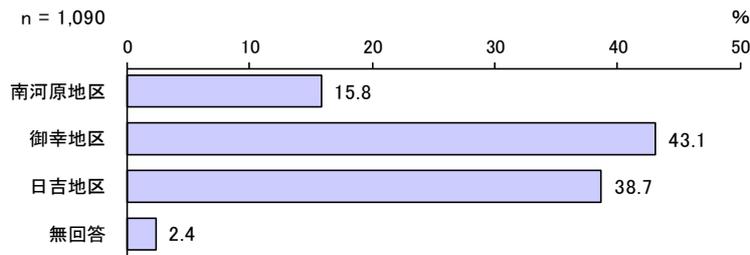
②未就学児、小学生、中学生、高校生の人数



【F7】高齢者(65歳以上)の同居状況



【F8】居住地区



※各地区の内訳

【幸区役所管内】

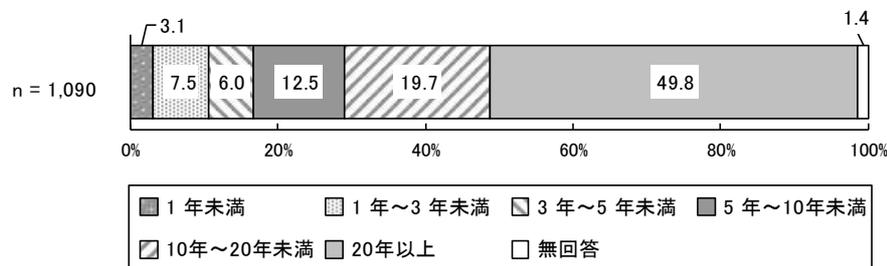
南河原地区：大宮町、幸町、中幸町、堀川町、南幸町、都町、柳町

御幸地区：遠藤町、河原町、小向町、小向仲野町、小向西町、紺屋町、下平間、新塚越、神明町、塚越、戸手、戸手本町、東古市場、古市場、古川町

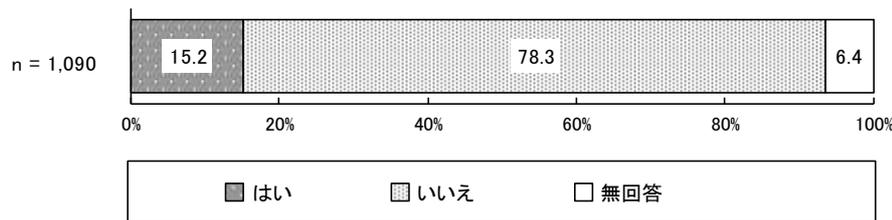
【日吉出張所管内】

日吉地区：小倉、鹿島田、北加瀬、新小倉、新川崎、東小倉、南加瀬、矢上

【F9】居住年数

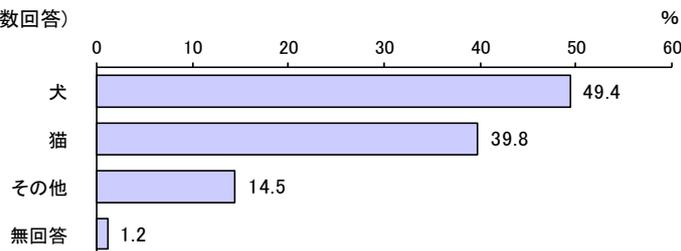


【F10】ペットの有無



【F11】ペットの種類

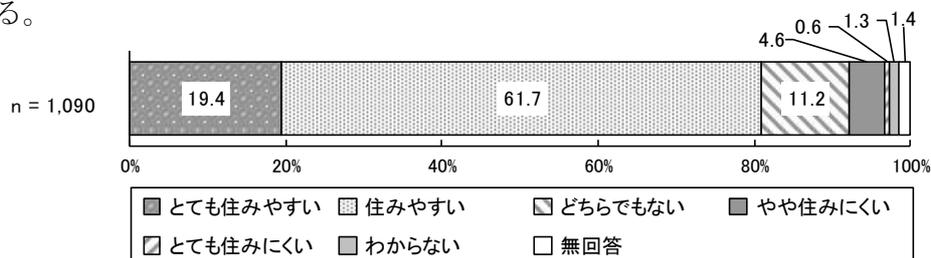
n = 166 (複数回答)



1 幸区について

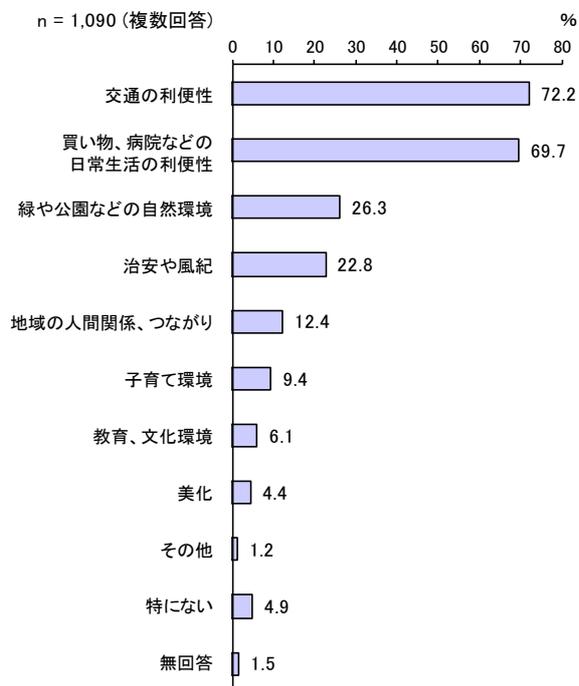
(1) 幸区の住みやすさ

「とても住みやすい」(19.4%)と「住みやすい」(61.7%)を合わせると、81.1%が住みやすいと感じている。



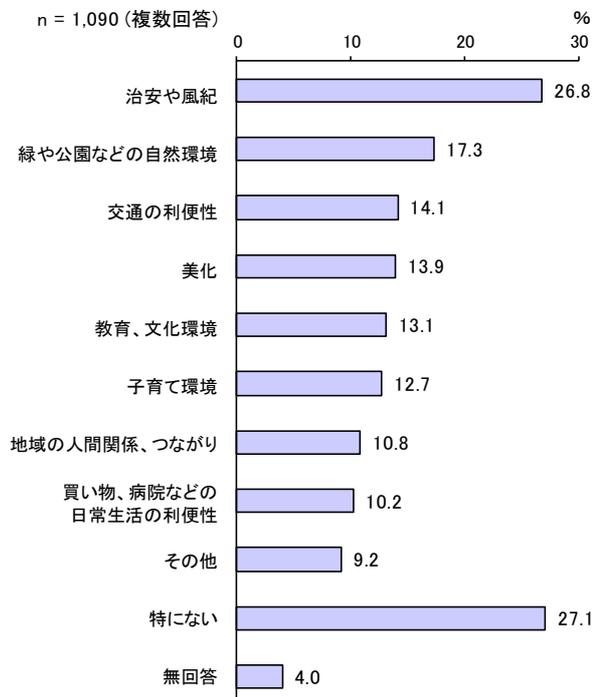
(2) 幸区の良いと感じるところ

「交通の利便性」が72.2%で最も高く、次いで「買い物、病院などの日常生活の利便性」(69.7%)、「緑や公園などの自然環境」(26.3%)と続いている。



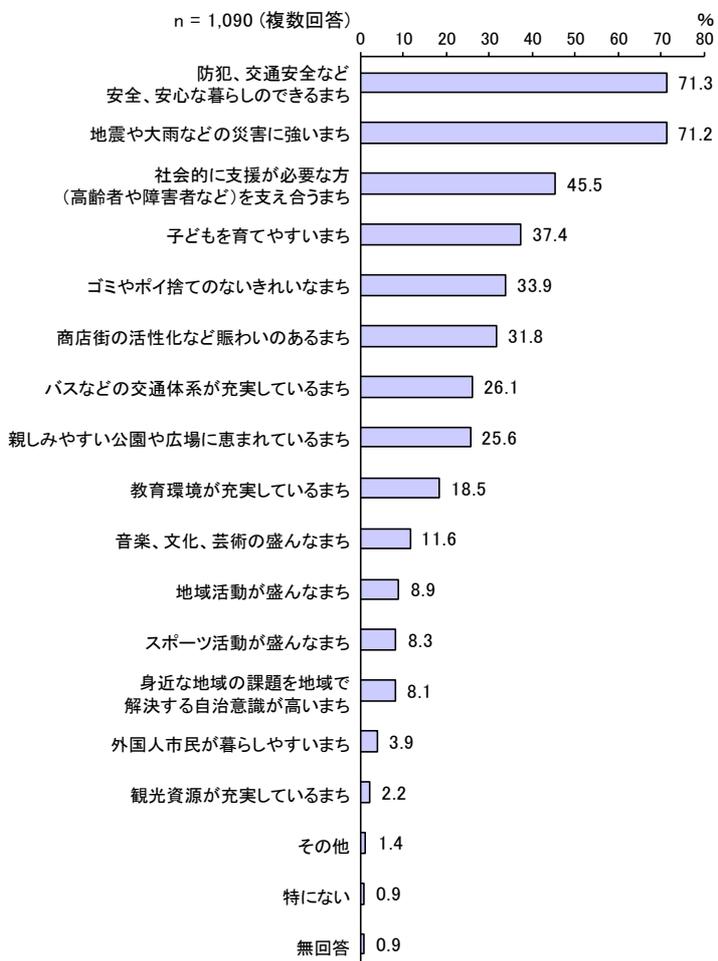
(3) 幸区の不満に感じる場所

「治安や風紀」が26.8%で最も高く、次いで「緑や公園などの自然環境」(17.3%)、「交通の利便性」(14.1%)と続いている。一方、「特にない」が27.1%となっている。



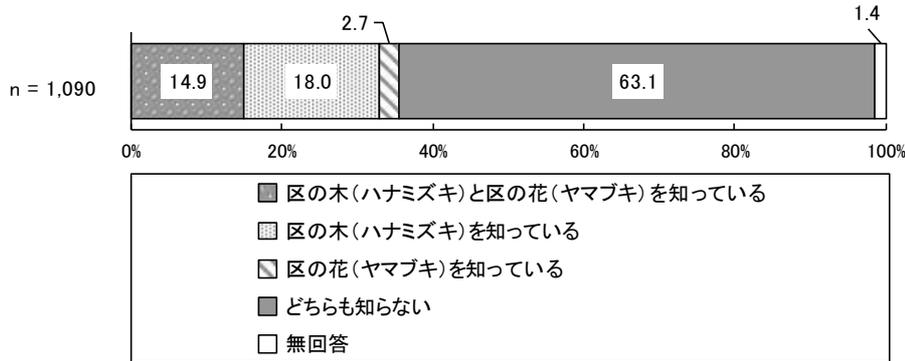
(4) 10年後の幸区について、どのようなまちをめざすべきか

「防犯、交通安全など安全、安心な暮らしのできるまち」が71.3%で最も高く、次いで「地震や大雨などの災害に強いまち」(71.2%)、「社会的に支援が必要な方(高齢者や障害者など)を支え合うまち」(45.5%)と続いている。



(5) 幸区の「区の木」「区の花」について

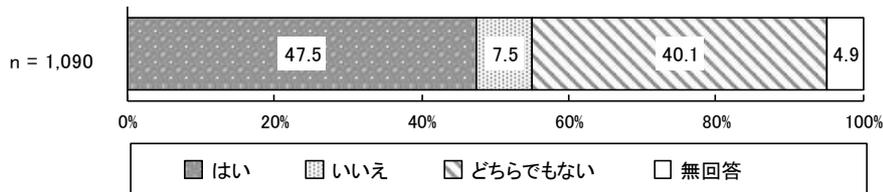
「区の木（ハナミズキ）と区の花（ヤマブキ）を知っている」（14.9%）は1割を超え、「区の木（ハナミズキ）を知っている」（18.0%）が2割近く、「区の花（ヤマブキ）を知っている」（2.7%）がわずかとなっている。一方、「どちらも知らない」（63.1%）は6割を超えている。



2 区民サービスについて

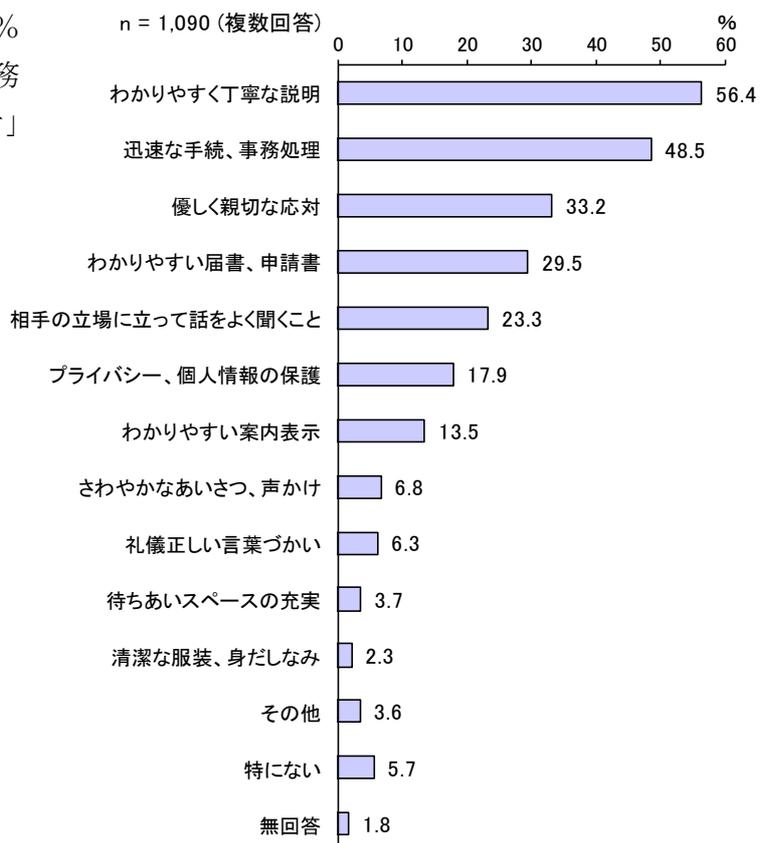
(1) 幸区役所職員の対応に満足しているか

「はい」が47.5%、一方「いいえ」が7.5%となっている。



(2) 幸区役所（日吉出張所、道路公園センター、市民館等を含む）での窓口サービスで期待するもの

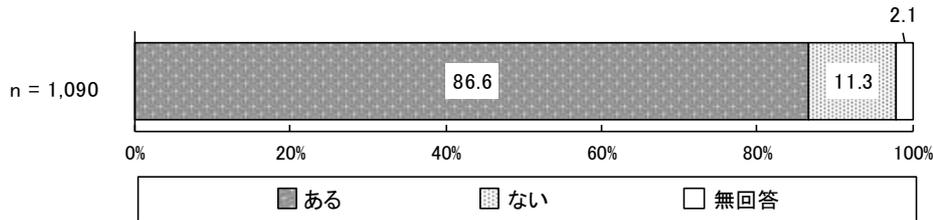
「わかりやすく丁寧な説明」が56.4%で最も高く、次いで「迅速な手続、事務処理」（48.5%）、「優しく親切な対応」（33.2%）と続いている。



3 自転車事故防止対策について

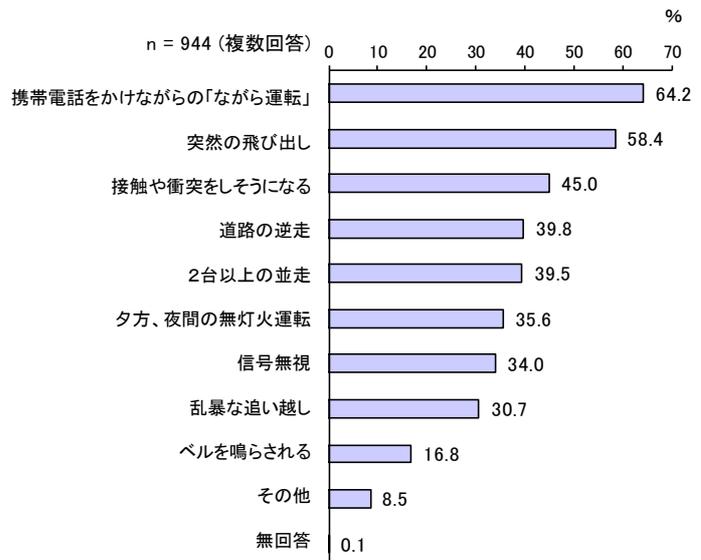
(1) 自転車に危険を感じたことがあるか

「ある」が86.6%、一方「いいえ」が11.3%となっている。



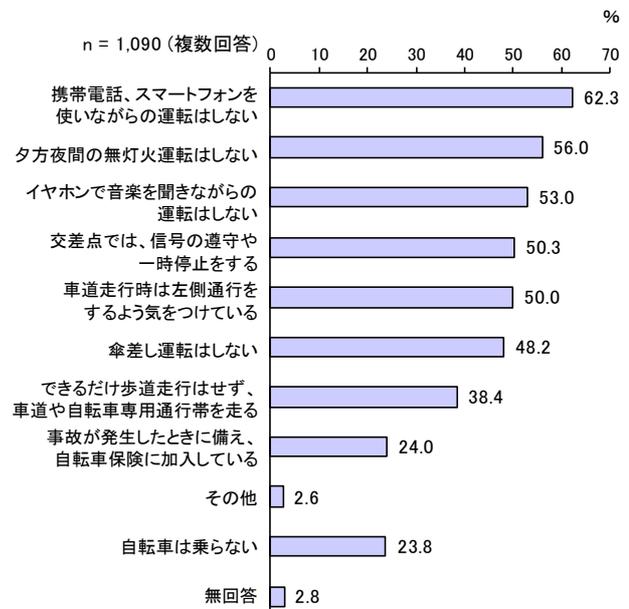
(2) どのような時に自転車を危険と感じたか

「自転車に危険を感じたことがある」人に聞いたところ、「携帯電話をかけながらの『ながら運転』」が64.2%で最も高く、次いで「突然の飛び出し」(58.4%)、「接触や衝突をしそうになる」(45.0%)と続いている。



(3) 自転車に乗るときに実施している項目

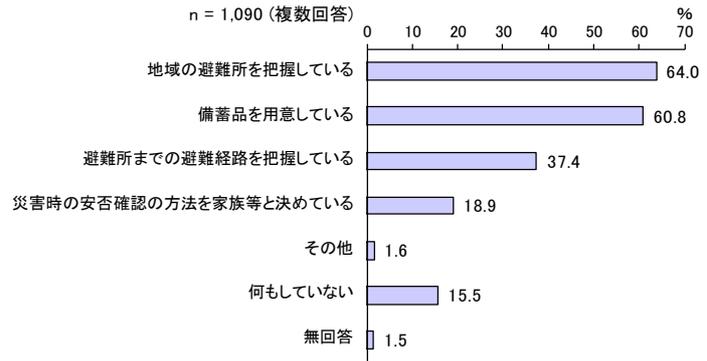
「携帯電話、スマートフォンを使いながらの運転はしない」が62.3%で最も高く、次いで「夕方夜間の無灯火運転はしない」(56.0%)、「イヤホンで音楽を聞きながらの運転はしない」(53.0%)と続いている。



4 防災について

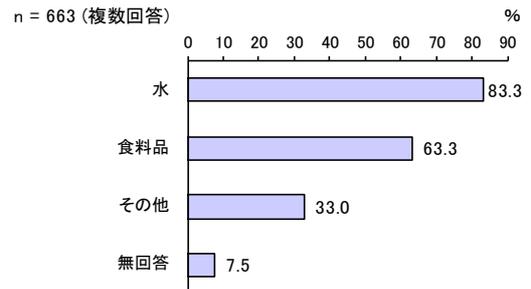
(1) 災害に備えて行っていること

「地域の避難所を把握している」が64.0%で最も高く、次いで「備蓄品を用意している」(60.8%)、「避難所までの避難経路を把握している」(37.4%)と続いている。



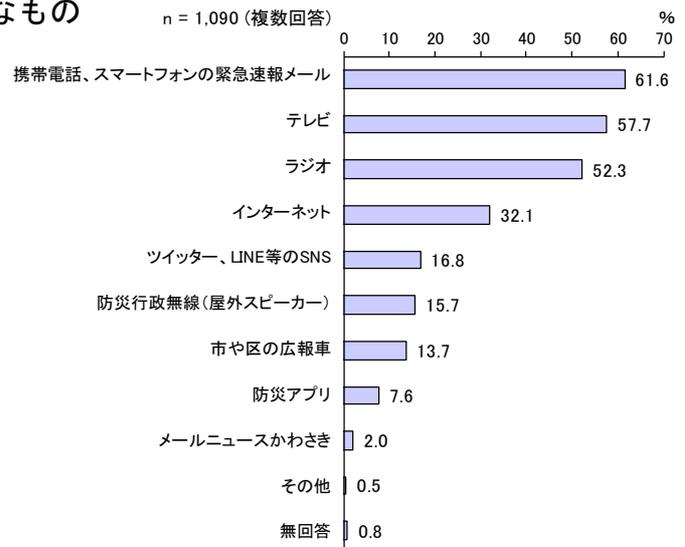
備蓄しているもの

「備蓄品を用意している」人に備蓄しているものを聞いたところ、「水」が83.3%で最も高く、次いで「食料品」(63.3%)と続いている。



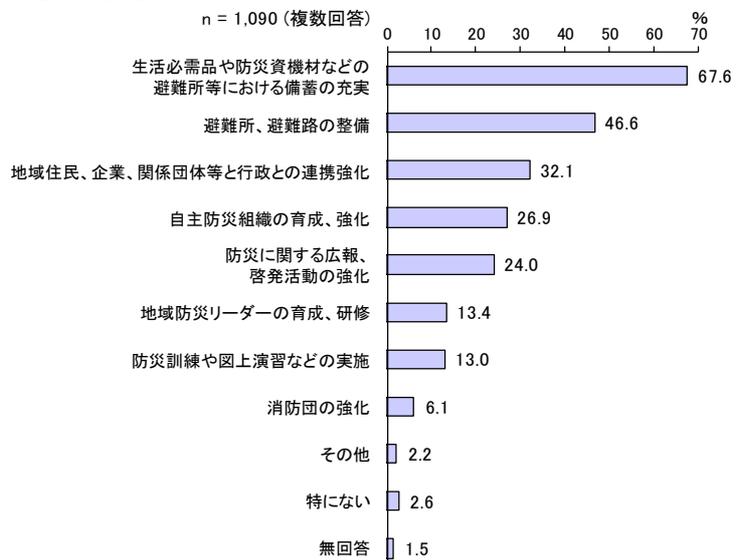
(2) 災害時の情報入手手段として有効なもの

「携帯電話、スマートフォンの緊急速報メール」が61.6%で最も高く、次いで「テレビ」(57.7%)、「ラジオ」(52.3%)と続いている。



(3) 地域の防災力向上のため力を入れるべきもの

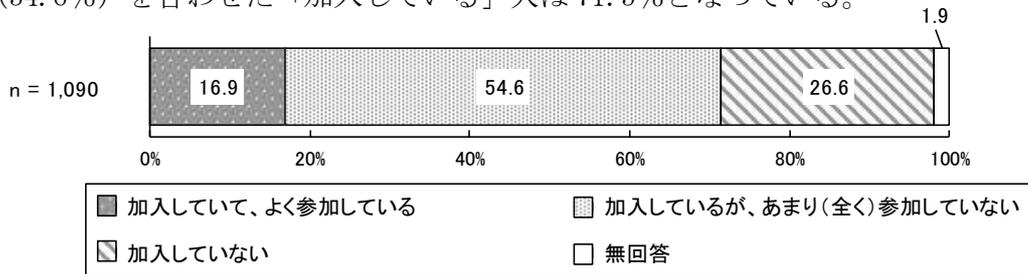
「生活必需品や防災資機材などの避難所等における備蓄の充実」が67.6%で最も高く、次いで「避難所、避難路の整備」(46.6%)、「地域住民、企業、関係団体等と行政との連携強化」(32.1%)と続いている。



5 地域コミュニティについて

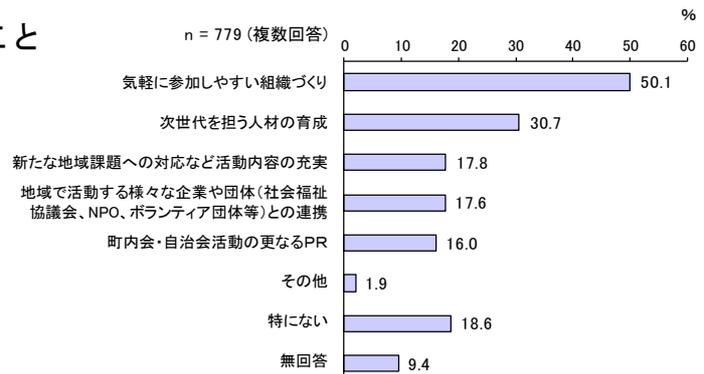
(1) 町内会・自治会への加入状況

「加入していて、よく参加している」(16.9%)と「加入しているが、あまり(全く)参加していない」(54.6%)を合わせた「加入している」人は71.5%となっている。



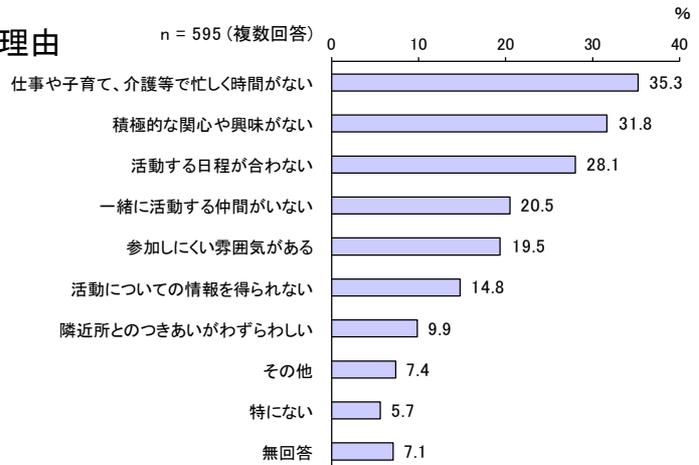
(2) 町内会・自治会活動に期待すること

「加入している」人に期待することを聞いたところ、「気軽に参加しやすい組織づくり」が50.1%で最も高く、次いで「次世代を担う人材の育成」(30.7%)、「新たな地域課題への対応など活動内容の充実」(17.8%)と続いている。



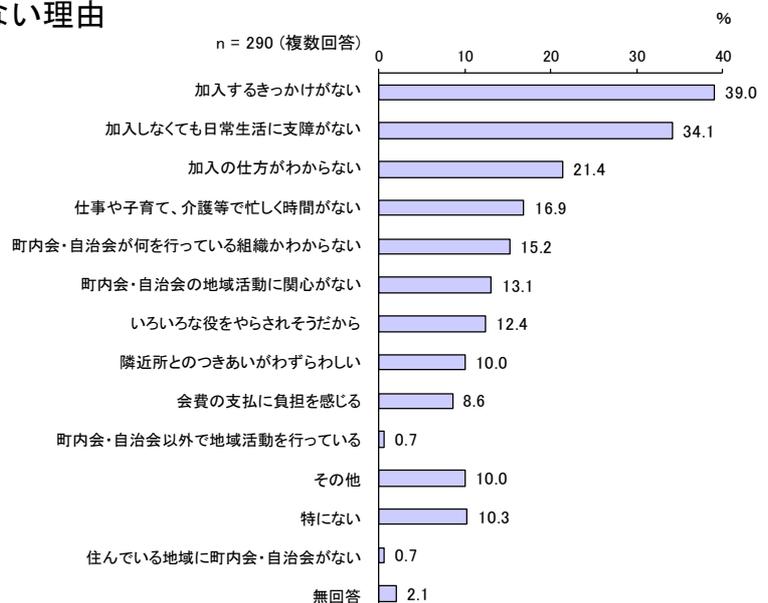
(3) 町内会・自治会活動に参加しない理由

「加入しているが、あまり(全く)参加していない」人に理由を聞いたところ、「仕事や子育て、介護等で忙しく時間がない」が35.3%で最も高く、次いで「積極的な関心や興味がない」(31.8%)、「活動する日程が合わない」(28.1%)と続いている。



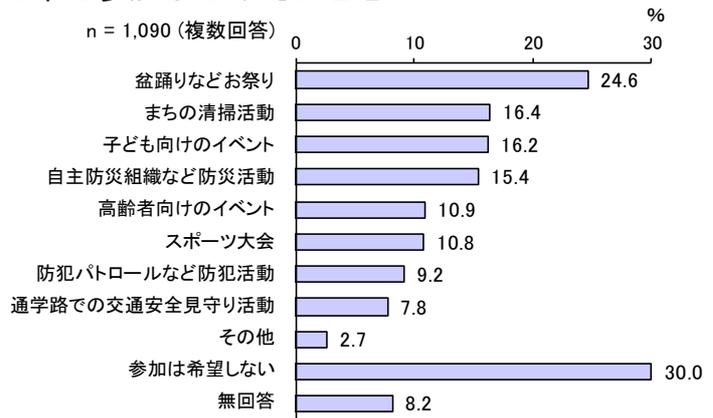
(4) 町内会・自治会に加入していない理由

「加入していない」人に理由を聞いたところ、「加入するきっかけがない」が39.0%で最も高く、次いで「加入しなくても日常生活に支障がない」(34.1%)、「加入の仕方がわからない」(21.4%)と続いている。



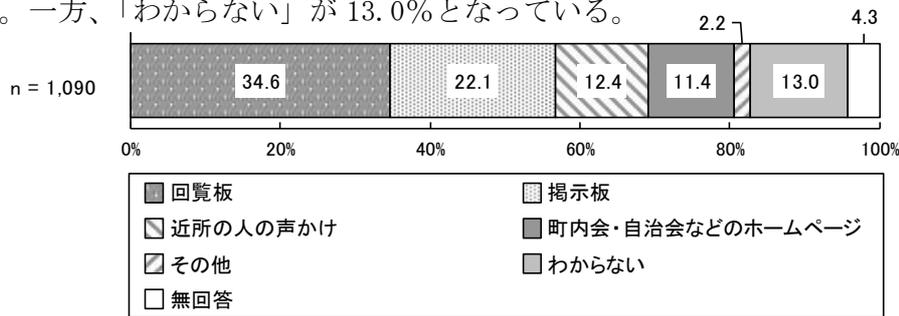
(5) 町内会・自治会が行っている活動の中で参加してみたいこと

「盆踊りなどお祭り」が24.6%で最も高く、次いで「まちの清掃活動」(16.4%)、「子ども向けのイベント」(16.2%)と続いている。一方、「参加は希望しない」が、30.0%となっている。



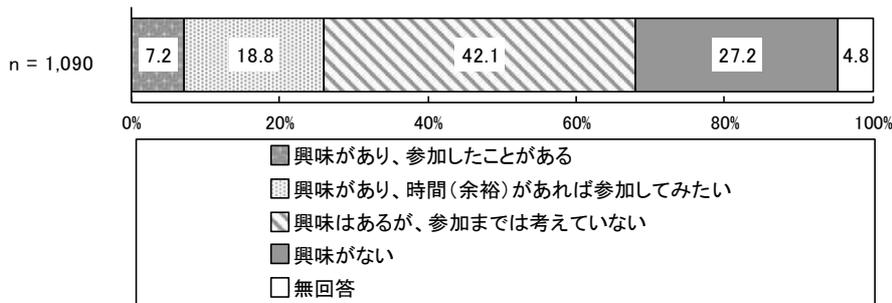
(6) 町内会・自治会の活動を知ってもらうために一番有効な方法

「回覧板」が34.6%で最も高く、次いで、「掲示板」(22.1%)、「近所の人への声かけ」(12.4%)と続いている。一方、「わからない」が13.0%となっている。



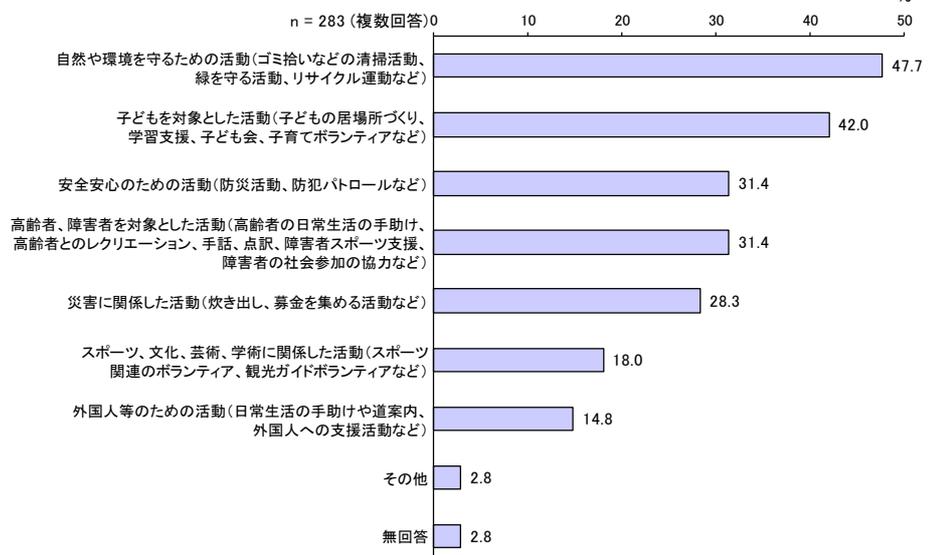
(7) ボランティア等の市民活動について

「興味があり、参加したことがある」(7.2%)と「興味があり、時間(余裕)があれば参加してみたい」(18.8%)を合わせると26.0%が参加の意欲を持っている。一方で「興味がない」が27.2%となっている。



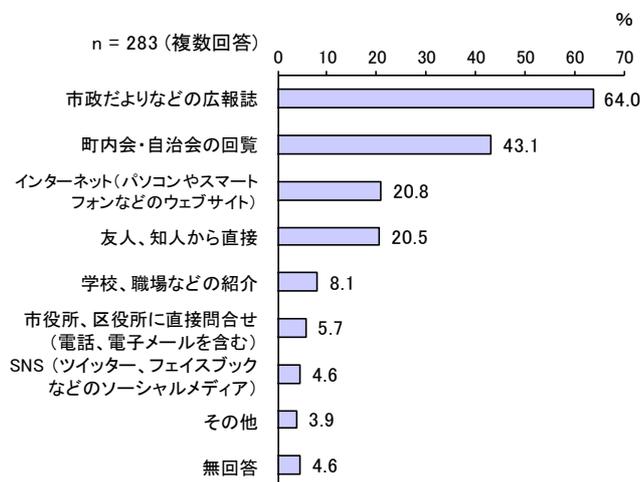
(8) 「参加したことがある」もしくは「参加してみたい」ボランティア等の市民活動の分野

「市民活動に参加の意欲を持っている」人に聞いたところ、「自然や環境を守るための活動」が47.7%で最も高く、次いで「子どもを対象とした活動」(42.0%)、「安全安心のための活動」及び「高齢者、障害者を対象とした活動」(31.4%)と続いている。



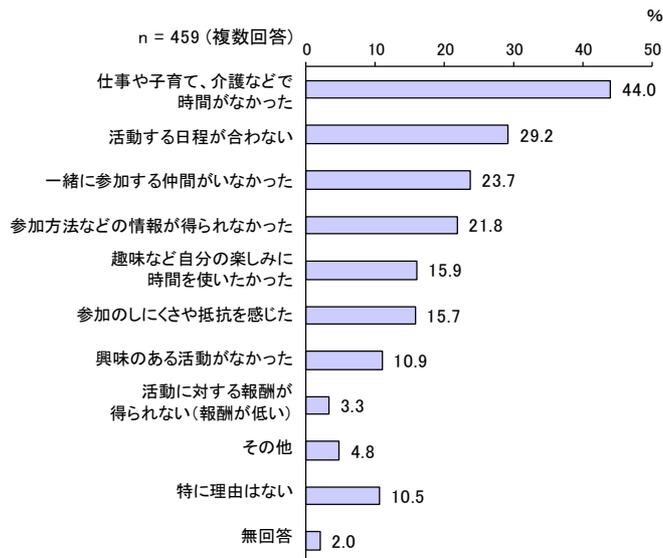
(9) 市民活動についての情報入手方法

「市民活動に参加の意欲を持っている」人に聞いたところ、「市政だよりなどの広報誌」が64.0%で最も高く、次いで「町内会・自治会の回覧」(43.1%)、「インターネット(パソコンやスマートフォンなどのウェブサイト)」(20.8%)と続いている。



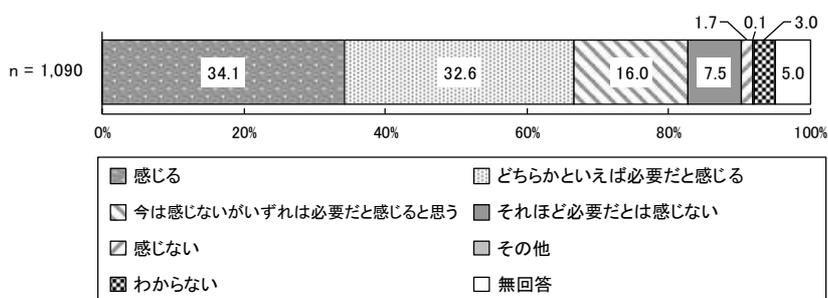
(10) 市民活動の参加にいたらなかった理由

「市民活動に興味はあるが、参加までは考えていない」人に理由を聞いたところ、「仕事や子育て、介護などで時間がなかった」が44.0%で最も高く、次いで「活動する日程が合わない」(29.2%)、「一緒に参加する仲間がいなかった」(23.7%)と続いている。



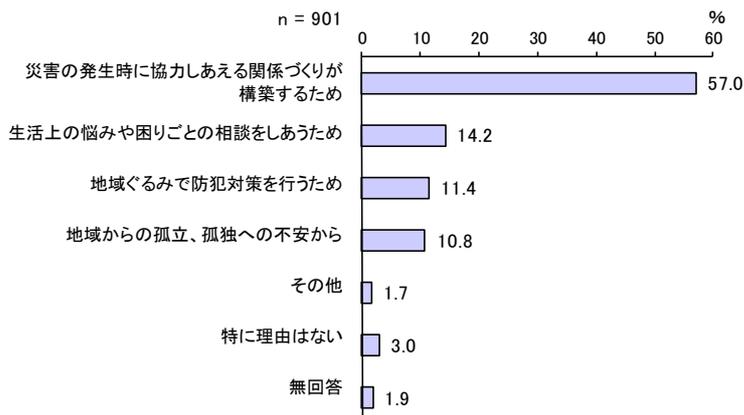
(11) 安心して暮らし続けるために地域とのつながりが必要だと感じるか

「感じる」(34.1%)、「どちらかといえば必要だと感じる」(32.6%)、「今は感じないがいずれは必要だと感じると思う」(16.0%)を合わせると、82.7%が地域とのつながりが必要と感じている。



(12) 地域とのつながりが必要と感じる理由

「地域とのつながりが必要と感じる」人に理由を聞いたところ、「災害の発生時に協力しあえる関係づくりが構築するため」が57.0%で最も高く、次いで「生活上の悩みや困りごとの相談をしあうため」(14.2%)、「地域ぐるみで防犯対策を行うため」(11.4%)と続いている。

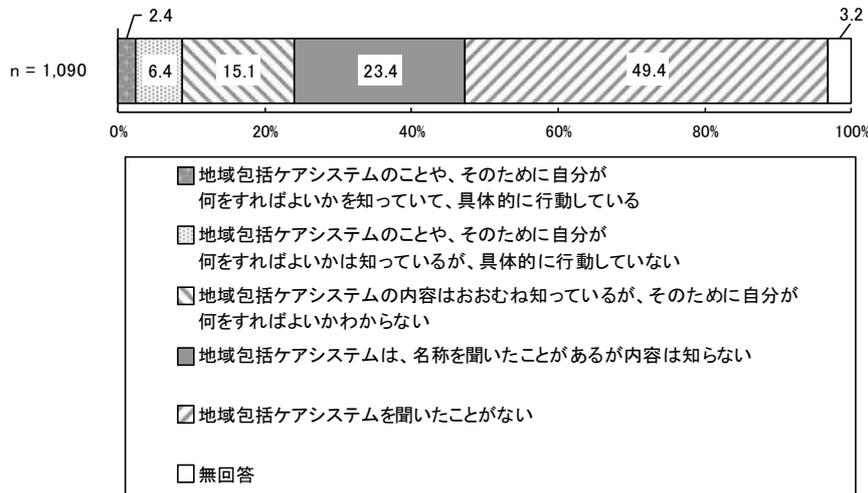


6 地域包括ケアシステムについて

(1) 地域包括ケアシステムの認知度や理解度について

「知っている、具体的に行動している」(2.4%)と「知っているが、具体的に行動していない」(6.4%)、「おおむね知っているが、そのために自分が何をすればよいか分からない」(15.1%)、「名称を聞いたことがあるが内容は知らない」(23.4%)までを合わせると、認知度は47.3%となっている。

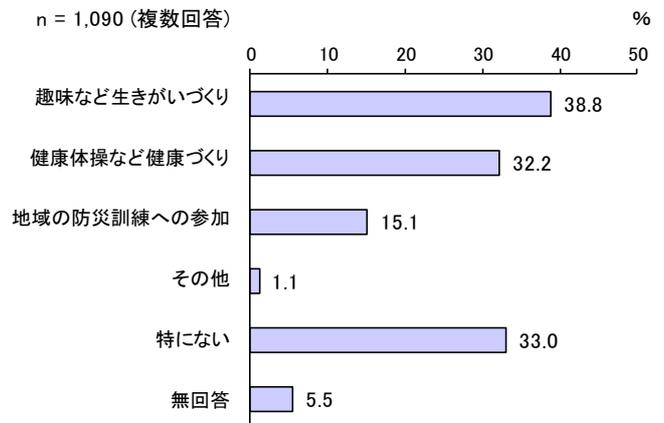
また、「知っている、具体的に行動している」(2.4%)と「知っているが、具体的に行動していない」(6.4%)を合わせると、理解度は8.8%となっている。



(2) 自助・互助について行動していること、行ってみたいこと

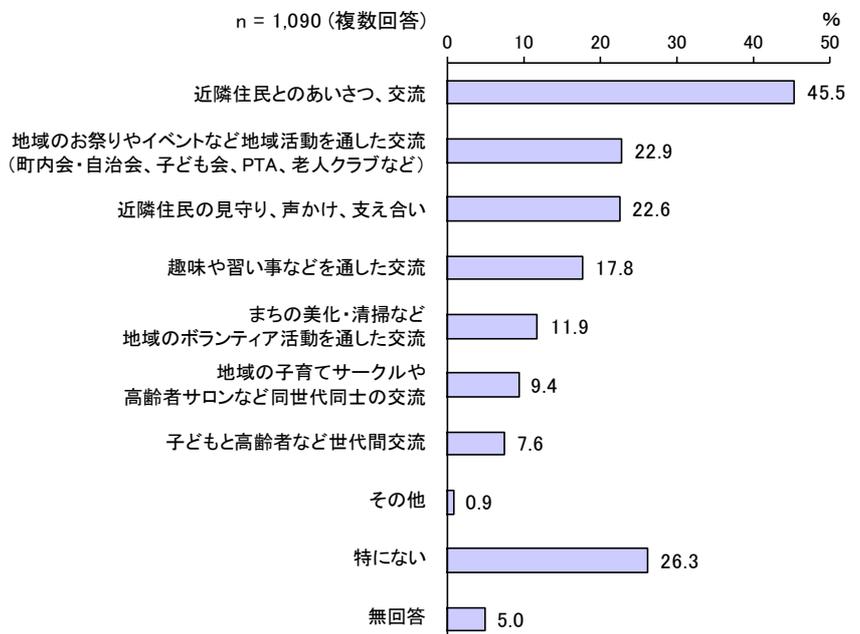
①自助

「趣味など生きがいづくり」が38.8%で最も高く、次いで「健康体操など健康づくり」(32.2%)、「地域の防災訓練への参加」(15.1%)と続いている。



②互助

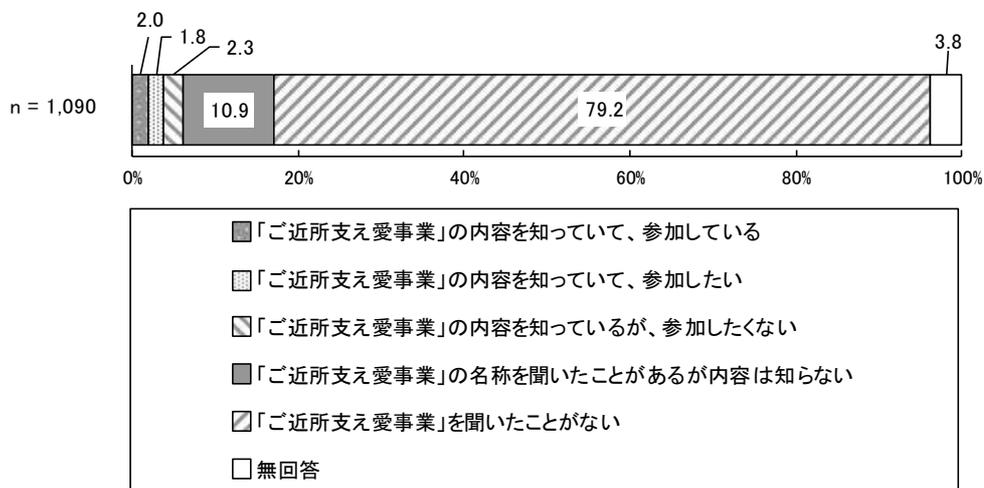
「近隣住民とのあいさつ、交流」が45.5%で最も高く、次いで「地域のお祭りやイベントなど地域活動を通じた交流」(22.9%)、「近隣住民の見守り、声かけ、支え合い」(22.6%)と続いている。



(3) ご近所支え愛事業の認知度や理解度について

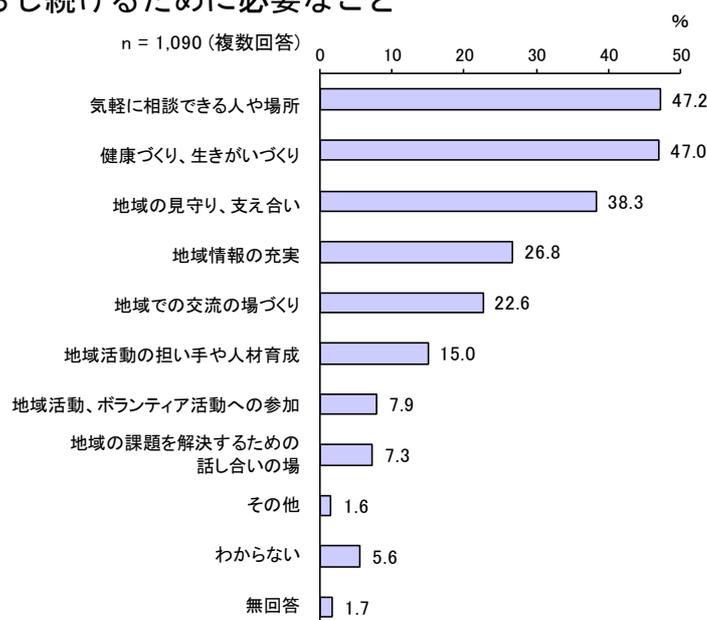
「知っている、参加している」(2.0%)と「知っている、参加したい」(1.8%)、「知っているが、参加したくない」(2.3%)、「名称を聞いたことがあるが内容は知らない」(10.9%)までを合わせると、認知度は17.0%となっている。

また、「知っている、参加している」(2.0%)と「知っている、参加したい」(1.8%)、「知っているが、参加したくない」(2.3%)を合わせると、理解度は6.1%となっている。



(4) 誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし続けるために必要なこと

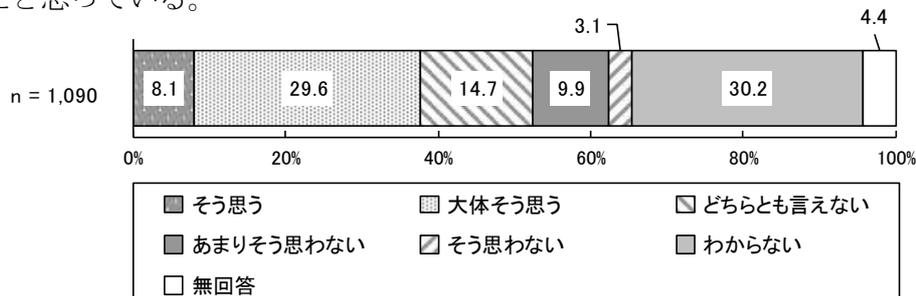
「気軽に相談できる人や場所」が47.2%で最も高く、次いで「健康づくり、生きがいがづくり」(47.0%)、「地域の見守り、支え合い」(38.3%)と続いている。



7 子育て支援について

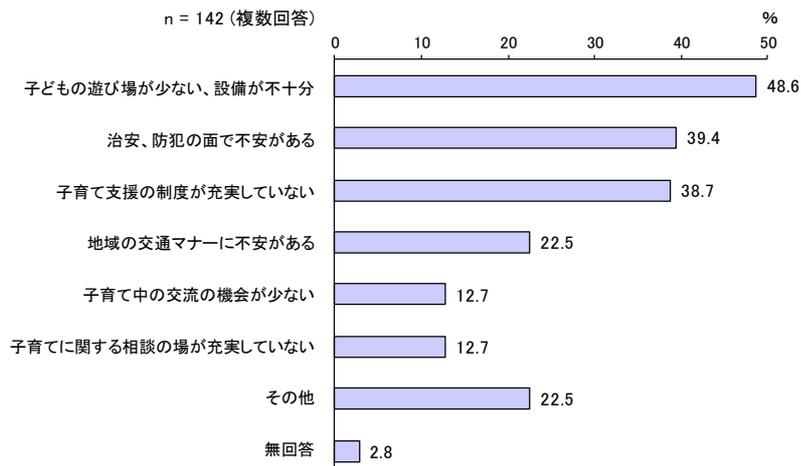
(1) 幸区は出産、子育てがしやすいか

「そう思う」(8.1%)と「大体そう思う」(29.6%)を合わせると、37.7%が出産・子育てがしやすいまちだと思っている。



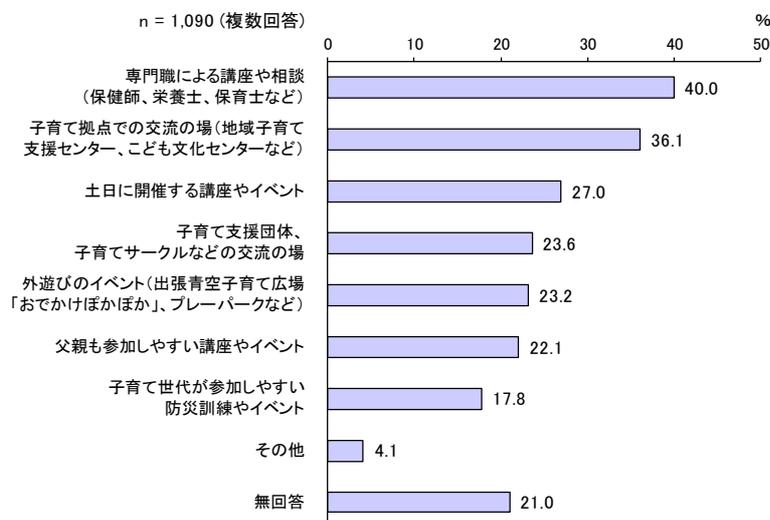
(2) 幸区が出産、子育てしやすいまちだと思わない理由

「子育てしやすいまちだと思わない」人に理由を聞いたところ、「子どもの遊び場が少ない、設備が不十分」が48.6%で最も高く、次いで「治安、防犯の面で不安がある」(39.4%)、「子育て支援の制度が充実していない」(38.7%)と続いている。



(3) 子育て支援の取り組みについて、効果的だと思うもの

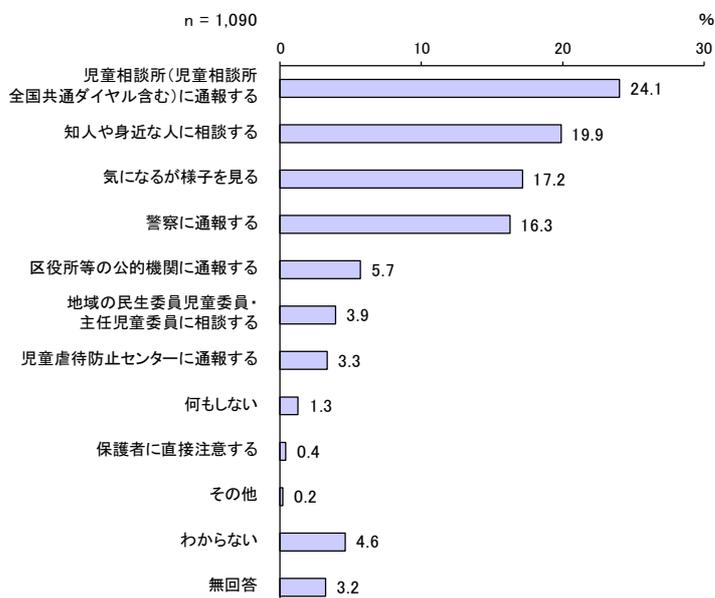
「専門職による講座や相談(保健師、栄養士、保育士など)」が40.0%で最も高く、次いで「子育て拠点での交流の場(地域子育て支援センター、こども文化センターなど)」(36.1%)、「土日に開催する講座やイベント」(27.0%)と続いている。



8 児童虐待について

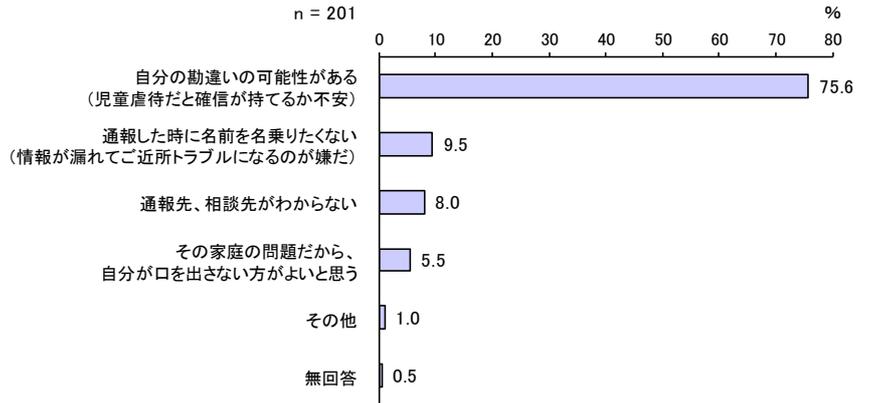
(1) 児童虐待と思われる家庭を知ったときの対応

「児童相談所(児童相談所全国共通ダイヤル含む)に通報する」が24.1%で最も高く、次いで「知人や身近な人に相談する」(19.9%)、「気になるが様子を見る」(17.2%)と続いている。



(2) 児童虐待への消極的対応の理由

「何もしない」、「気になるが様子を見る」を選んだ人に理由を聞いたところ、「自分の勘違いの可能性はある(児童虐待だと確信が持てるか不安)」が75.6%で最も高く、次いで「通報した時に名前を名乗りたくない(情報が漏れてご近所トラブルになるのが嫌だ)」(9.5%)、「通報先、相談先がわからない」(8.0%)と続いている。

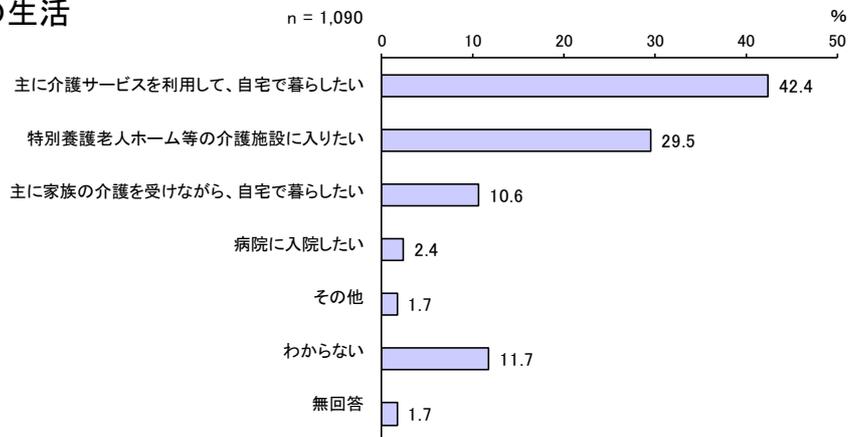


9 高齢者支援について

(1) 介護が必要になった場合の生活

「主に介護サービスを利用して、自宅で暮らしたい」が42.4%で最も高く、次いで「特別養護老人ホーム等の介護施設に入りたい」(29.5%)、「主に家族の介護を受けながら、自宅で暮らしたい」(10.6%)と続いている。

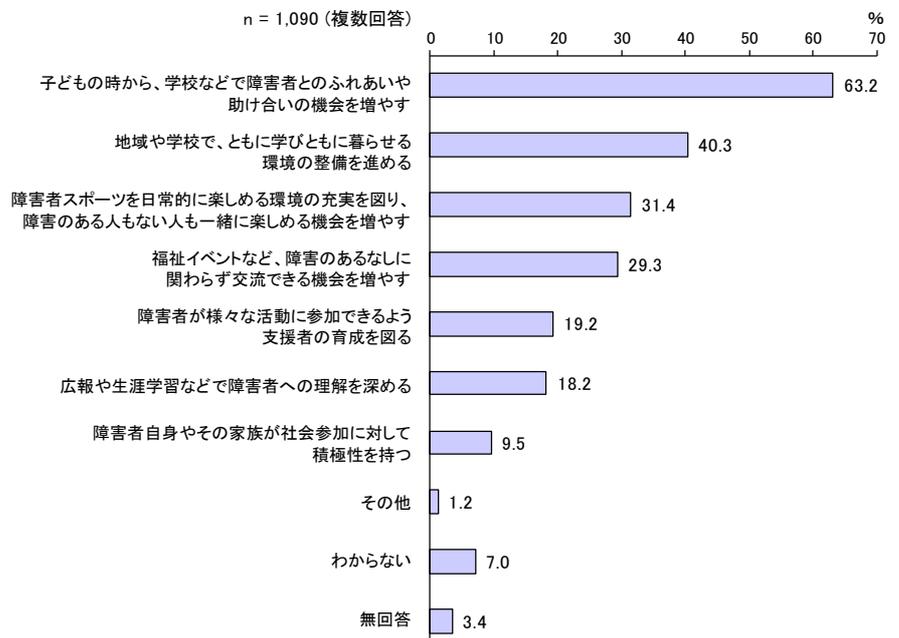
一方、「わからない」は11.7%となっている。



10 障害者支援について

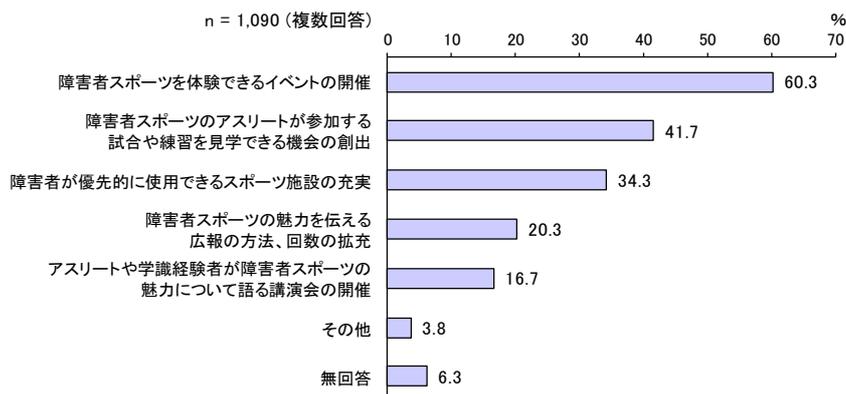
(1) 心のバリアフリーを進めるために大切だと思うもの

「子どもの時から、学校などで障害者とのふれあいや助け合いの機会を増やす」が63.2%で最も高く、次いで「地域や学校で、ともに学びともに暮らせる環境の整備を進める」(40.3%)、「障害者スポーツを日常的に楽しめる環境の充実を図り、障害のある人もない人も一緒に楽しめる機会を増やす」(31.4%)と続いている。



(2) 障害者スポーツを普及するために必要だと思う取り組み

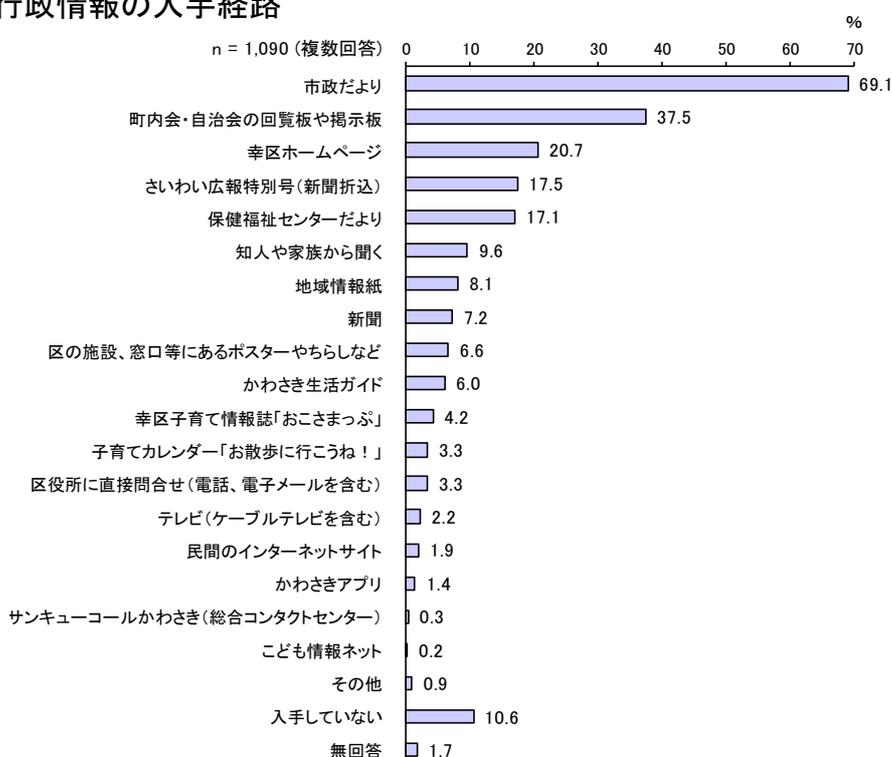
「障害者スポーツを体験できるイベントの開催」が60.3%で最も高く、次いで「障害者スポーツのアスリートが参加する試合や練習を見学できる機会の創出」(41.7%)、「障害者が優先的に使用できるスポーツ施設の充実」(34.3%)と続いている。



11 行政の情報について

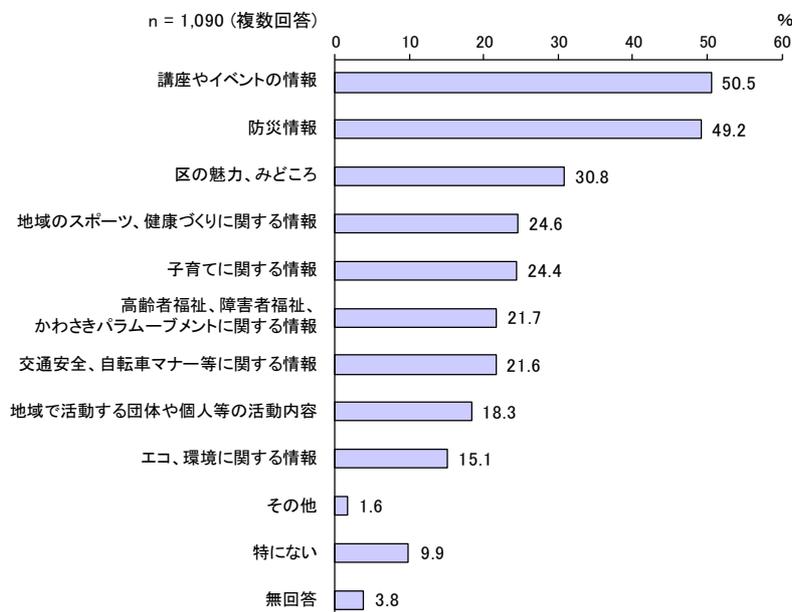
(1) 幸区役所などが提供する行政情報の入手経路

「市政だより」が69.1%で最も高く、次いで「町内会・自治会の回覧板や掲示板」(37.5%)、「幸区ホームページ」(20.7%)と続いている。



(2) 幸区役所が発行する市政だより幸区版等で掲載してほしい記事

「講座やイベントの情報」が50.5%で最も高く、次いで「防災情報」(49.2%)、「区の魅力、みどころ」(30.8%)と続いている。





平成 30 年度幸区区民アンケート調査 <概要版>

平成 31 年 1 月

発行 幸区役所まちづくり推進部企画課

〒212-8570 川崎市幸区戸手本町 1-11-1

TEL 044-556-6612(直通)

FAX 044-555-3130

メールアドレス 63kikaku@city.kawasaki.jp